



写真等無断転載禁止

3書を読んで、野生保護・環境保全の活動のあり方を考えた ①

子どもと自然学会顧問・人間学研究所長 岩田 好宏

はじめに

野生保護や環境保全、あるいは子ども・市民の「自然活動」にとり組んでいる人たちが、その活動のあとを記録し、思いを語った次のア～イの3つの本を読み、野生保護、環境保全の活動のあり方を考える機会をえた。どれも感銘深い本であった。

- ア. 関啓子著『「関さんの森」の奇跡—市民が育む里山が地球を救う』2020年1月31日新評論刊
- イ. 公益財団法人トトロのふるさと基金編著『トトロの森をつくる—トトロのふるさと基金のあゆみ30年』2020年10月30日合同出版刊
- ウ. 戸川久美著『野生動物のためのソーシャルディスタンス—イリオモテヤマネコ、トラ、ゾウの保護活動に取り組むNPO』2020年11月10日新評論

1. 「関さんの森」の奇跡

最初に『「関さんの森」の奇跡』を読んだ時は、「関さんの森」を守った人たちの、知恵と努力、ねばり強さに驚嘆するばかりであった。著者の父であった関武夫さんは、1967年から所有している森や広場を子どもの遊び場、運動場として提供していた。その武夫さんが亡くなって、関武夫さんの3人の娘さんに2つの大変な難題がふりかかってきた。1つは相続税納入のために森を失うことだった。それは埼玉県の公益財団法人に寄付し、この法人の配慮によって「関さんの森」の維持管理と利用を地域の「関さんの森を育む会」に委ねられることによって解決した。2つめの難問は、中々解決はできなかった。1964年に計画されていた道路敷設が2008年になって急に現実のことになったことである。そのことによって「関さんの森」は分断され、縮小の危機に陥る。これは、千葉県松戸市の行政当局との話し合いのくり返しの中で、道路を迂回させることによって森の端の一部を失うだけにとどまった。ところが2つ目の問題には、もう1つ問題があった。計画がそのまま残ったことにより、それが復活すれば森は分断し大きく削り取られるという心配は消えなかった。

このような行政当局が策定した計画を白紙に戻すということは並大抵のことではなく、10年以上のくりかえしくりかえしの交渉の中で2019年になって敷設どおりの「計画変更」が認められた。それは、当事者がいうほど「奇跡」そのものであった。

2. 公益財団法人トトロのふるさと基金

『「関さんの森」の奇跡』の第3部の「里山保全イノベーション」には、興味深い「ナショナル・トラスト」に関する論述があつて、関啓子さんたちの環境保全活動を支えた思想的基盤を読みとることができた。しかし読んだ時は、何といたって最初に述べた強靱な精神に感嘆するばかりであった。ところがこれから紹介する2つの本を読んだ時、この関さんが書かれたナショナル・トラストについての考え方を思い出し、環境保全、自然保護の活動についての基本になるところを考えてみたいと思った。

公益財団法人「トトロのふるさと基金」の活動を編まれた本から紹介すると、この発端は1980年早稲田大学の所沢キャンパス造成に関係して、埼玉県所沢市周辺の広大な面積の旧里山が失われるという情報が伝わったことである。埼玉県野鳥の会など地域自然誌研究に取り組んでいた人たちを中心に、「狭山丘陵の自然と文化財を考える連絡会議」、「狭山丘陵を市民の森にする会」を結成し、市民によびかけ、調査研究を進めながら計画撤回の行動を開始した。しかし計画は撤回も大幅変更もされることはなく連絡会議は計画を受け入れざるをえず工事が開始された。キャンパスはできあがって旧里山林は消失し、1987年に早稲田大学は開校した。

この反対活動に結集した人たちのすごかったのは、ここで終わりにしないで、どのようにすれば残っている旧里山林を保存することができるかということに考えが及んだことである。1989年の年末近く

にはナショナル・トラスト活動準備会合が開かれ、翌 1990 年には規約、呼びかけ人を決め、4 月に発足記念集会を開催した。そして 1991 年 8 月には、最初の土地取得が実現した。土地の面積は 1182.88 m²、取得金額は 644 万 7800 円であった。その基金は集まった寄付金をあてた。以後 2020 年 7 月 7 日までに 54 か所の土地を取得した。その総面積はおよそ 11ha、取得金額は総額で 9 億 4900 万円になった。「トトロの森」、「トトロのふるさと基金」と

いう名称は、呼びかけ人の 1 人である宮崎駿さんの映画『トトロの森』にちなんだもので、それらの土地では、それぞれの地域の人たちによって谷戸の保全活動、ふるさと農業体験活動、環境教育、散策など活動が展開されている。これは、現在の日本における自然保護・環境保全に関係した法制度や行政のもとでは、最良の方法であるといえる。

(次号につづく)

意外と知らないカタツムリの謎 その9

—進化の実験室 小笠原の生物 絶海の孤島で進化を考える—

① 孤島 東京都小笠原村

東京から南へ約 1000km に位置する小笠原は、島の成立以来大洋中に孤立して存在し、一度も周囲の大陸と陸続きになったこ



図 1. 小笠原固有種カタマイマイの仲間

とが無い島を「大洋島」と呼びます。「大洋島」の生物は、何らかの方法で（鳥に運ばれたり、海流や風に流されたり、流木に乗ったりして）島に偶然たどり着き、島の環境に適応して生き残ったものの子孫であります。そのため、大型で海を越えにくい生物や、海水に弱い生物は島に渡るチャンスがきわめて低く、一般に「大洋島」では、大型の

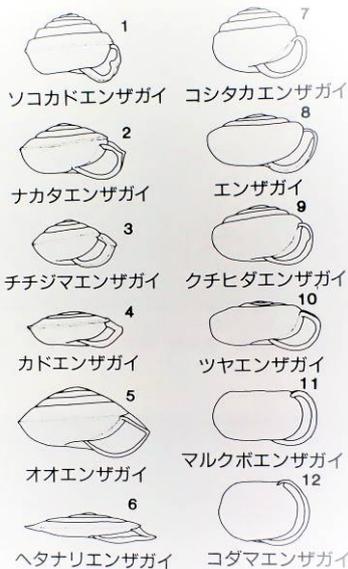


図 2. エンザガイの種分化

哺乳類や両生類、爬虫類、淡水魚類などが見られないことが多いと言われています。

② やっとたどり着いた生き物たちの運命は……

「大洋島」に定着した祖先種は、その後本土の仲間とは隔離された状態で長時間「独自の進化」の道を歩むことになるので、本土のものとは異なった「新しい種」に変わる場合が出てきます。こうしてできた「新種」は世界中でその島だけにしかないので「固有種」と呼ばれます。

「大洋島」ではさまざまな生物のグループで「固有種」の占める割合がきわめて高くなる特徴があります。小笠原に自生する約 400 種類の植物のうち、約 40%が「固有種」であり、樹木に限

千葉県立若松高等学校 四街道市 入村 信博

れば約 70%の高率になります。さらに、約 100 種が記録されている「カタツムリ」の世界では、なんとその 90%が「固有種」と確認されています。

③ 小笠原に「新種」が生まれる瞬間

一つの種がいろいろな環境条件の場所に進出するうちにそれぞれの場所で新しい「種」に代わり、一つの祖先から出発して島の中でいくつもの「新種」に分かれる「種分化」という現象が「大洋島」では見ることができます。

カタツムリは、小型で移動能力が低いため「種分化」が起こりやすいと考えられています。小笠原の固有カタツムリ「エンザガイ」のグループでは、一つの祖先から 12 種に分かれた例が知られています（図 2、資料は「小笠原の自然」富山清升より）。現在は個性豊かなこの 12 種が、一つの祖先から進化したと考えられています。

④ 孤島の生き物は「温室育ち」？

捕食者（敵）となる哺乳動物がおらず、島の外へ長距離の移動をする必要も無くなった「大洋島」の鳥や昆虫には、羽が退化して飛べなくなったり、



図 3. エンザガイの仲真 (上と横から)

警戒心が薄れ目の前までやってくる例（メジロやウグイス）が報告されています。このような「温室育ち」の生き物からなる「大洋島」の生態系に外から生活力旺盛な生き物が持ち込まれると、致命的な打撃を受けることが有ることは前回ご紹介した（小笠原のカタツムリが危ない）通りです。進化論で有名なダーウィンは「大洋島」である「ガラパゴス諸島」でその学説を確立しました。小笠原は規模こそ小さいですが「大洋島」の生き物のあり方の特徴を備えており「東洋のガラパゴス」と呼ばれるにふさわしい進化研究上、重要なところであります。

新浜の話39 ～トヨタ財団の研究コンクール～

千葉県野鳥の会 市川市 蓮尾 純子

1986年1月（たぶん13日）栃木県のタキザワハム泉川工場に見学に行った友の会の中心メンバー。長年会長を務められた東良一氏以下、故寺田一哉、故鈴木有、蓮尾純子等4、5名。亡夫嘉彪はたぶん同行していなかったと思います。鳥の世話をはじめとした仕事のため、蓮尾がふたりとも観察舎をあけることは原則としてありませんでした。

タキザワハム泉川工場は、宇井純先生提唱の養魚用水車を用いた工場排水の浄化を行っているところです。門をくぐり、ラグーンと呼ばれる浄化のための池に案内されました。浮かべてある養魚用水車のスイッチが入れられると、活性汚泥で赤茶色をした水がかき回されて、盛大にしぶきが上がりました。

当時の私は、活性汚泥というものは水の浄化を助ける化学物質、と誤解していました。活性汚泥とはバクテリア、つまり生物にほかならず、酸素がじゅうぶんにありさえすれば活発に有機物を栄養として取り込み、増殖するというのをこの時初めて知ったのです。

派手にしぶきが上がっているのに、特に臭気は感じませんでした。これはいい、とみなが直感的に思いました。まっ黒に汚れて臭気を放つどぶ川に水車を設置して、何らかの効果があるのか、半信半疑でしたが、水車の盛大なしぶきを見た方は「何、これ？」と思われるでしょう。効果の有無にかかわらず、どぶ川の浄化のために行われていることらしい。どうしてこれほど水が汚れているのかと水の浄化について考えるきっかけになることは間違いありません。試してみる価値があります。

ちょうどその時期、トヨタ財団による「研究コンクール 身近な環境をみつめよう」の第4期目の募集が行われていました。唐沢孝一、川内博氏らが中心となった「都市鳥研究会」が第3期の最優秀賞を受賞された活動です。工場見学に行く前に、応募の書類等は入手しており、締切は1月15日。この日は祝日なので、翌16日朝に寺田一哉さんが直接届けに行く、という手筈も決めてあったと思います。

工場見学から一両日のうちに応募書類を仕上げる、むろん研究計画や予算書もつけて、というのは私の

担当。ドロナワ根性・やっつけ仕事は新浜を守る会時代からの得意わざです。この研究コンクールは、他に類を見ないユニークなものでした。担当されていた山岡義典さんは、後にNPO法が作られた時の中心となられ、さらにその後NPOセンターを設立された方です。

どこがユニークかということ、まず、法人とか財団といった肩書のない団体でも、計画や体制がしっかりしていれば助成する、ということ。当時の友の会は同好会と変わらない任意団体で、資金を集めて財団法人の資格をとることを目標にしていました。会計担当者には必ず謝礼を払う、というのも他にはあまり例を聞かず。何よりも、審査を経て選ばれたグループには、半年間の予備研究助成で上限50万円、その中から絞り込まれたグループに、2年間の本研究に対し、上限500万円、という方法と金額がみごとでした。団体にはそれぞれアドバイザーがつき、現地に足を運んで活動の実態を見ます。



昭和59年10月、都市鳥研究会がトヨタ財団「研究コンクール 身近な環境をみつめよう」第3期最優秀賞を受賞した時の木製トロフィーとプレート写真（提供：田中正彦氏）

一介の任意団体にとっては、使い道に制約がない50万円という金額はとてありがたいものです。しかし500万円となると、これは恵みか、重荷か。意欲満々だった行徳野鳥観察舎友の会にとっては、もし助成が得られれば、将来につながる大きな転換点というべきものになるでしょう。

千葉県立中央博物館、特別展示「九十九里浜の自然誌」を見て

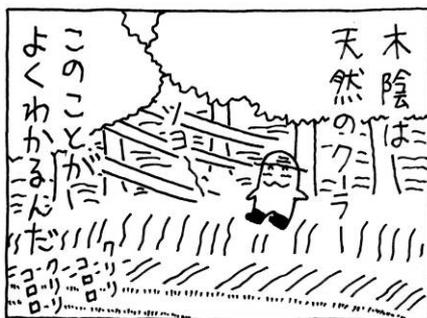
船橋市 長 正子

今、千葉県立中央博物館で「九十九里浜の自然誌」という特別企画展が開かれています。本会の会員である平沼さんの写真が大きなパネルになって展示されているというので、見てきました。この写真を撮った状況はちば環境情報センターのニュースレ

ターの1月号で掲載されていますが、九十九里の海にスナメリ（クジラの仲間）が現れ、そのおこぼれを狙うかのようなウミネコ（海鳥）の群れが激しく羽ばたいている様子が撮影されている写真で、九十九里の海が豊かな海だということを表しているよ

スロマン④

作:つやま
あきひ



つやまあきひのウェブサイト

21世紀絵コロシアム <http://www.2leco.net>

うな写真でした。

他にも九十九里海岸で見られる植物や貝、鳥の展示がされていました。はく製もあります。

しかし、私がとても興味を持ったことは、九十九里浜のイワシ漁が食料としてだけでなく、干し肥料となって、綿花の栽培に役立っていたという記述でした。日本に木綿が入ってきたのは江戸時代。日本ではそれ以降綿花の栽培が盛んになり、それにイワシが干し肥として使われ貢献していたそうです。また、とてもいい値段で取引されたとのこと。

私は、以前「日本の綿花を保存する会」という会から種をもらい綿花を育てたことがあります。夏に上品な花を咲かせ、それが秋になると大きな種になり、ある日突然パッと開いて真っ白い綿が出てきます。とても感動的な花です。

今では安い輸入の綿花に押され、日本ではほとんど綿花は栽培されていません。

しかし、かつて日本では綿花が栽培され、日本人の衣類を変え、九十九里の豊かな海がそれを支えたと思うと不思議な感動を覚えました。

5月30日までやっているのので、皆さんも見に行ってください。密ではありません。

10kW以上の施設設置に 住民説明を求める神戸市条例

太陽光発電施設のあり方について考える会 小西 由希子

神戸市では、太陽光発電施設の導入を進める一方で、不適正な設置や維持管理によって災害の発生が助長され市民の不安が高まっている、人と自然の共生が損なわれるおそれが生じているとして、安全な市民生活及び良好な自然環境を確保するための条例を制定しています。

届出の対象は、発電出力10kW以上の施設（屋根への設置や自家消費以外）の新設で、許可申請又は届出の前に、近隣関係者への説明を求めています。対象は、「事業区域に隣接する土地について所有権又は借地権を有する者、上記の土地に存する建築物について所有権、使用貸借による権利又は賃借権を有する者、地元自治会等に所属する関係住民など」で、「誠実かつ丁寧な説明を実施して下さい」と書かれています。

さらに、維持管理の定期報告や撤去費用の積立、廃止時の届出を求めたり、道路用地（国道、都道府県道等）の敷地境界から20m以内や市街化調整区域を1,000平方メートル以上含む区域への設置は、許可申請の対象としています。

千葉市でもこうしたきめ細かい配慮を促すことで、今後も太陽光発電施設の導入がスムーズに進められるのではないのでしょうか。市の積極的な働きかけを望みます。

【発送お手伝いのお願い】ニュースレター2021年6月号（第286号）の発送を6月7日（月）10時から千葉市民活動支援センター会議室（千葉市中央区中央2-5-1 千葉中央ツインビル2号館9階）にておこなう予定です。ただし新型コロナウイルス感染の拡大状況によっては中止する場合がありますので、お手伝いいただける方は事務局（小西 090-7941-7655）までご連絡ください。

あなたも入会しませんか キリトリセン

住所 〒 _____

ふりがな 氏名 _____ 男 女 Tel _____

E-mail _____ FAX _____

編集後記:この4月、退職を機にドローンを購入しました。下大和田の谷津田と森を4回ほど空撮し、改めて水と緑の豊かな環境に惚れ直しました。その一方で、ヘリポートや太陽光パネルなどの人工物、2019年9月9日の台風15号による倒木被害も目の当たりにしました。残った環境と多様な生きものたちをどうしたら次の世代に残せるか、大きな課題も観えてきました。mud-skipper

については、3月下旬より暖かな日が続いていたものの、4月初旬より10日程寒の戻りがあり、苗の成長に不安がありました。そこで、今季は秘密兵器、育苗シートを導入しました。水温が低く、毎年、成長が遅めになる、大椎小田んぼの苗代に覆いを施しました。4月11日より10日間でしたが、順調な成長を確認し、24日にシートを除去しました。以降、田植えまでの期間、しっかりと根を張ってくれればと見守る日々です。

第192回 小山町YPP「苗代作りその2」 2021年 4月 4日(土)

暖かな南よりの風の強い日でした。日差しはありましたが、曇りがち、それでも少し動くと汗ばむ陽気でした。あざみ谷に緑米の苗代を、あかがえる田んぼに予備のコシヒカリの苗代を作りました。午後からは天気が崩れ、雨も降る予報でしたが、午前中に全ての作業を終えることが出来ました。あざみ谷は日照も短く、水温も冷たい田んぼですが、じっくりと立派な苗に育てて欲しいと願いました。 参加3名(大人3名)

☆令和3年度期 小学校田んぼ体験学習の日程決定

社会的にはコロナ禍第4波の来襲が心配される中ではありましたが、令和3年度期、大椎小、あずみ小、それぞれの田んぼ体験学習の予定が定まりました。コロナ禍に入って実施された、前年度の実績を基に、感染拡大回避への配慮を確認するとともに、具体的な実施要領を各校にて説明、ご理解を頂きました。なお、水源に近く、水温が低めである大椎小の田んぼについては、田植え時期を5月中旬前に設定頂き、稲刈りまでに十分な期間をとれるように計画しました。なお、前述の通り、大椎小田んぼの苗代については育苗シートを導入し、早目の田植えに向けて順調に成長している様に感じています。

【谷津田・季節のたより】

下大和田町 4月 4日 ニホンカワトンボ出現 **報告：網代春男**

4月12日 ヤマカガシ出現。

4月20日 ハクビシンがアライグマ捕獲用罠にかかる。ハクビシン捕獲は初。

小山町 4月初旬～中旬 ウグイスの囀り、シュレーゲルアオガエルの声が盛んに響き渡る田んぼに、アオジの群れが飛来、ルリビタキ、モズも時折確認されます。キジや、リンドウ広場に訪れるイタチも間近に観ることがありそれぞれ活発な活動を思わせます。4日にはリンドウ広場にハナカイドウの可愛いピンク花が開花しました。

4月下旬 今年もカルガモ番が小山の田んぼに飛来。苗にいたずらしてくれないことを願うのみです。 **報告：たんぼぼ**

【イベントのお知らせ】

<下大和田谷津田>

・第262回 下大和田YPP「田おこし」、第263回 下大和田YPP「田うえ」

日時：田おこし 5月8日(土)、田うえ 5月15日(土) 9時45分～14時 小雨決行

持ち物：マスク着用、長袖長ズボンの服装、田んぼ用長靴、帽子、ゴミ袋、飲み物、弁当、敷物。

参加費：米づくり年間参加者以外300円(小学生以上)

・森と水辺の手入れ

日時：2021年 5月15日(日) 9時45分～15時 雨天中止

持ち物：マスク着用、飲み物、長袖長ズボンの服装、長靴、帽子、軍手、午後まで活動する方は弁当、敷物。

参加費：無料

・第257回 下大和田谷津田観察会とゴミ拾い

初夏の花や生きものを観察しながら谷津を巡ります。

日時：2021年 6月 6日(日) 9時45分～12時 雨天決行

持ち物：マスク着用、筆記用具、飲み物、長袖長ズボンの服装、長靴(通常の)、帽子、あれば双眼鏡、ゴミ袋、午後まで活動する方は弁当、敷物

参加費 100円(小学生以上)

<小山町谷津田>

・第193回 小山町YPP「こしひかりの田植え」

小学校田んぼの田植えに引き続き、YPPたんぼ、今季最初田植えが始まります。

日時：2021年 5月15日(土) 10:00～ ☆小雨決行

場所：りんどう広場 ※ 一般の方の参加も若干名受付ます。

参加ご希望の方は、赤シャツ親父(e-mail: tomizo_i@nifty.com)までご連絡下さい。

